

2) 「だれが」「何が」「何を」などを問う

◆ 「何が (～する) のか。」 「 (～する) のは、だれか。」
 「何を (～する) のか。」 「何と (～する) のか。」 という形の問題。
 下線部に書かれていない主語や対象語などを探す。

次の順番で考えよう。

- ・まず、下線部をよく見て、内容をつかもう。
- ・前後を見て答えを探し、下線部の主語、対象語に当てはめてみよう。

★ 例題11 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

オーケストラは演奏会の前に、その会場で本番と同じように練習する。このとき、ステージマネージャーは、まずトラックで練習場から会場まで楽器を運び、会場を本番どおりに設定し、舞台や客席の照明を決める。練習が始まれば曲の演奏時間を計り、遅れて来たお客さんを席に案内するタイミングも決める。本番になると、ステージに続くドアを開け閉めして、指揮者や演奏者を送りだしたり迎えたりする。照明やアナウンスの指示もする。そして演奏会後は舞台を片付け、楽器を練習場まで戻して、①次の準備をするのである。

問① ①次の準備をするのはだれか。

- 1 オーケストラ
- 2 ステージマネージャー
- 3 指揮者
- 4 演奏者



ステップ1 本文を読んで全体をつかもう

キーワード：オーケストラ、演奏会、会場、ステージマネージャー → テーマは、演奏会？

ステップ2 問いを見て本文から答えを探そう

1) 下線部の文を見る

「①次の準備をするのである」

「～はだれか」 → 主語を質問している。

2) 前の文を見る

オーケストラは、…練習する。

このとき、ステージマネージャーは、…運び、…設定し、…照明を決める。
 練習が始まれば…計り、…決める。
 本番になると、…開け閉めして、…送りだしたり迎えたりする。
 照明や～指示もする。
 そして演奏会後は…片付け、…戻して、…次の準備をするのである。

↓
 この五つの文の主語は、すべて「ステージマネージャー」

ステップ3 選択肢と比べよう

次の準備をするのは「ステージマネージャー」

2: 正解

「だれが」「何が」を問う問題の場合、トピックを表す助詞「は」に注目しよう。

「Aは～。～。～。Bは～」のような文章の場合、「A」が2文目や3文目の主語になることが多い。

2) 「だれが」「何が」「何を」などを問う

★例題12 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

むかしは、トレーニングを軽視しがちだった。いや軽視したわけではないが、テニスの選手が、野球をしたり、スキーをやったり、あるいは陸上競技に出たりしたこともあるそうだ。それが、知らず知らずのうちにいいトレーニングになっていたのだろう。だがスポーツをする人が多くなってから、各競技かけ持ちという万能選手がいなくなって、次第に、トレーニングをあまりやらなくなった時代があるという。もちろん軽い体操やランニングは、どんな時代でもあったが……。

①いまは違う。「科学的」ということばが流行しているように、トレーニングも重要視されるようになった。それも、サッカーなら、サッカーにあうように、テニスならテニスにいいように研究されてきている。

(石黒修『テニス』講談社)

問① ①いまは違うとは、むかしとどのように違うのか。

- 1 むかしは、トレーニングを軽視していたが、いまは「科学的」研究が盛んになり、トレーニングを全くしなくてもよくなった。
- 2 むかしはトレーニングをしなくてもどんなスポーツもうまくなったが、いまはスポーツによって異なるトレーニングが必要である。
- 3 むかしは、ほかのスポーツをすることがトレーニングになっていたが、いまはそれぞれのスポーツにあうトレーニングをするようになった。
- 4 むかしは、いろいろなスポーツをかけ持ちでやる選手がいなかったが、いまはトレーニングが重視され、万能選手が増えてきた。



ステップ1 本文を読んで全体をつかもう

キーワード：トレーニング、軽視、「科学的」、重要視 → テーマは、トレーニング？

ステップ2 問いを見て本文から答えを探そう

下線部の文を見る

①いまは違う。 → 「むかし」と「いま」の対比に注目する。

むかし	は、	トレーニングを軽視しがちだった。 いや軽視したわけではないが、 <u>テニスの選手が、野球をしたり、…</u> <u>陸上競技に出たりしたこともある</u> そうだ。
	↑ 対比	
いま	は、	トレーニングも重要視されるようになった。 それも、 <u>サッカーなら、サッカーにあうように、…</u> <u>研究されてきている</u>

ステップ3 選択肢と比べよう

むかしは、ほかのスポーツをすることがいいトレーニングになっていた。

いまは、「科学的」トレーニングが重視され、それぞれのスポーツにあうものが研究されている。

- 1：いま、トレーニングを全くしないとは書かれていない。
- 2：むかし、トレーニングをしなくてもうまくなったとは書かれていない。
- 3：正解
- 4：むかし、スポーツをかけ持ちしなかったとは書かれていない。いま、万能選手が増えてきたとは書かれていない。

練習25 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

人に何かを聞かれたとき、つい使ってしまうのが「あ、それでいいですよ」という言葉。ベストではないが断るほどでもない、といったニュアンスだろう。

たとえば、帰宅して妻に「夕飯、カレーなんだけど」と言われた夫が、「ランチもカレーだったのにな」と思いながらも「ああ、それでいいよ」と答えてしまう、という感じだ。本音では「カレーが二回続くのはイヤだな」と思いながらもそれを口にしないやさしさも、そこには込められている。

しかし、「それでいいよ」と言われたほうは、そこに混じっている気配りやさしさには①なかなか気づかない。

(香山リカ『言葉のチカラ コミュニケーションレッスン』集英社)

問い ①なかなか気づかないのはだれか。

- 1 カレーでいいかどうか聞かれた人
- 2 カレーでいいかどうか聞いた人
- 3 カレーでいいと答える人
- 4 カレーはイヤだと思う人

練習26 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

まとめて助数詞と呼ぶそうだが、ものを勘定する言葉は奥深い。生き物は匹で足りると思いきや、ウサギは羽、イカは杯、チョウは頭とも数える。では、それらを生き物たらしめている命はどう数えるのだろう。草花にも①あるから人や体ではなく、個も違う。

とりあえず、八つの命が送り出されたと書く。米国で生まれた男6人、女2人の八つ子である。680～1470グラムの未熟児(注1)ながら、帝王切開(注2)による5分の「安産」だった。八つ子は米国で2例目、全員が元気に育てば世界初のケースになるらしい。

(朝日新聞2009年1月30日)

(注1)未熟児：普通より軽い体重で産まれた赤ん坊

(注2)帝王切開：出産のために行う手術

問い 何が①あるのか。

- | | |
|-------|-------|
| 1 生き物 | 2 数 |
| 3 命 | 4 助数詞 |

練習27 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

学校でも会社でも、「計算は速く正確にやれ」「厳密な答えを出せ」とばかり言われる。そうして、みんな頭がくたびれて、いつしか数がキライになっていく。「それはあまりにモットイナイことだ」と筆者は思うのである。

数に強くなると、いろいろ面白くて、実になることが多くなる。たとえば、いつもの的確に判断できるようになるとか、物事を考えたとおりに動かせるようになる。そんなことを繰り返していると、とても自信がつく。そして、①もつとある。人が褒めそやしてくれるのである。だから、イイ気になれる(注1)。

そういう人は、脇から見ていると、妙に自信あり気で、立派な感じに見える。読者のみなさんのまわりにも、必ず一人はそういう人がいるはずである。

(畑村洋太郎『数に強くなる』岩波書店)

(注1)イイ気になる：良い気持ちになる

問い ①もつとあるとあるが、何がもつとあるのか。

- 1 数がキライになる理由
- 2 イイ気になれること
- 3 的確に判断できるようになること
- 4 面白くて実になること